

## 市長記者会見記録

日時：2025年12月23日（火）14時00分～14時16分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：市政一般

### <内容>

#### 【市政一般】

#### 《今年の漢字について》

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。

それでは、早速質疑に入りますが、まずは幹事社様からよろしくお願いします。

【t v k（幹事社）】 今月幹事社のt v kです。よろしくお願いします。

年内最後の市長会見となりました。今年も様々なことがあったと思いますが、福田市長にとってはどんな1年だったのか、漢字一文字でお願いします。

【市長】 もう最初から笑っちゃって。こんな感じで、「始」まりということですか。

【t v k（幹事社）】 その心は。

【市長】 市制101年目ということで、100年を超えて新しい始まりの1年だったということと、ブランドメッセージもありましたけれども、「KAWASAKI 100+1-新しいはじまりを、さあ、いっしょに。」ということで、市民の皆さんと新しい一歩を踏み出した1年であったと思いますし、私も任期を新たに始めたということの1年でもあったので、そういった始まりの年であったと思ってこの字を選びました。

#### 《今年の印象的な出来事について》

【t v k（幹事社）】 1年を振り返って、何か記憶に残っている話題などはありましたか。

【市長】 新しい始まりをという意味では、一番新しいところでいきますと、世界初の商用の液化水素の基地というものを川崎で、新しい脱炭素の社会に向けて始まったという1年でもあったと思いますし、看護大学院も開校し、新小倉小学校という新しい学びの場ということが始まった1年でもあったと思いますし、それから、太陽光発電の設置義務化というものも始まったということで、そういった意味では新しい脱炭素への一歩だったというような、それから学びの始まりということもあったと思いますし、それから、自動運転バスの取組というのも全国に先駆けて始まっているということでもありますので、新しいチャレンジを始めた年だなということ、たくさん新しいチャレンジに取り組んだ年だったと思います。

【t v k（幹事社）】 ありがとうございます。少し写真タイムで、文字を掲げていただいてもよろしいですか。

【市長】 毎年この汚い字で……。

【司会】 すみません、写真のお時間をいただければと思います。

（写真撮影）

【司会】 よろしいでしょうか。

では、質疑、引き続きお願いします。

#### 《物価高騰対策について》

【t v k（幹事社）】 では、別の質問を1つだけ、t v kから失礼します。

政府が物価高対策として自治体に活用を促しているおこめ券について、川崎市は交付金をどのように活用される御予定なのか、もし決まっていたら教えていただきたいのと、決まっていない場合に、おこめ券について、市長としてはどのように感じているか、教えてください。

【市長】 まだ何に使うかというのは検討状況にあるということで、先日、額が示されたというのがつい先日ということもありまして、どういう使い道にするかというのは、これから速やかに検討していきたいと思っておりますが、おこめ券についてはかなりいろんな御意見があると思っておりますが、よく言われるのが、経費率が高いんじゃないかという話もありますけれども、これは本当に難しく、私たち地元応援券ですとか、P a y P a yでのそういったものやってきましたけれども、一定程度経費というのがかかるんですよね、事務手数料的なものというのが。他方、全く経費がかからないのは、例えば上下水道料金を引くとかという話という方法もありますが、果たしてそれが市民の皆さんが求めているかという形でいくと、いやいや、そっちもどうなのかという御意見もあり、両軸ともいろんな賛否両論あるんだろうなと思っておりますが、どうすれば物価高騰対策に資することができるのかということをしっかり議論して見極めていきたいなと思っております。

【t v k（幹事社）】 それは、おこめ券もまだ可能性があると思っていということですか。

【市長】 あまりないと思います。あまりないって変な言い方ですけど、私も、おこめ券については、この話が出てきた瞬間からちょっと違和感あるなという感覚はありましたので。

【t v k（幹事社）】 ありがとうございます。

#### 《今年の漢字について》

【神奈川（幹事社）】 神奈川新聞です。

先ほどの始まりの話に付随して、新しいことをチャレンジした1年というところで、逆に、あえて課題、こういうの残っちゃったなみたいなのところがもしあれば教えてください。たくさんあるとは思いますが。

【市長】 たくさんあるところで言いますと、これは私たちのコントロールできないところではありますが、地方制度調査会のところに特別市というのは、今年の秋が勝負だと思っていたところなんですけれども、それが少し遅れているということは、年を持ち越したなという感じがあるので、そこは、やり残したというよりも、課題をそのまま年越しちゃうんだなということはありません。

あとは、そうですね、いろいろあるんだと思いますけれども、今瞬間にぱっと出てくるのはそういう形ですかね。はい。

【神奈川（幹事社）】 ありがとうございます。特別市に関しては、来年度もフルスピードでというか。

【市長】 そうですね。とにかく全力で行くという。

【神奈川（幹事社）】 2026年度に特に力を入れたいというか。

【市長】 そうですね。

【神奈川（幹事社）】 やっぱり重要課題の一つということになってくるのでしょうか。

【市長】 そうなると思います。国会での議論も、来年、通常国会でいろんな形で出てくると思うので、それに、しっかり議論に乗っけていかなければならないと思っていますし、国会だけの動きじゃなくて、地制調の動きというのが通常ルートでもあると思うので、そちらにもしっかりと働きかけをしていくということは、しっかりやっていきたいと思っています。

#### 《学校給食費について》

【神奈川（幹事社）】 ありがとうございます。

あと、給食無償化についてなんですけれども、政府というか、国のほうが、ある程度一定の方針を示しましたが、川崎市の給食のほうも物価スライドによっての上昇によって、なかなか結構な額が今、そのまま市民に払ってもらうなら結構な額に膨れ上がっていると思うんですけれども、その辺、市長は、今の段階ではどの程度とか、何かお考えがあれば教えてください。

【市長】 まず、これだけ、特に食料品の物価が高騰しているということをまず市民の皆さんに御理解をいただかなければならないと思っています。その上で、どうこれから対応していくかということになってくると思うんですけど、まだ何も決まっておられません。

無償化ではなかったということは明らかで、抜本的な負担軽減ですか、そういう言葉ということで、無償化ということでは全くなかったということが明らかになったので、ぜひ報道ベースでもそう書いていただいています、何となく無償化、無償化となると、いかにも国が無償化でやるのかということになるのは、それは誤解を生むので、本当に報道の皆さんにも御協力をいただきたいと思いますが、その上でどうしていくのかというのは、全体の中で考えていかなくちゃいけないと思っています。

【神奈川（幹事社）】 今の段階では、はっきりしたことは言えない。

【市長】 そうですね。

【神奈川（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

【司会】 では、幹事社様以外でお願いいたします。

東京新聞さん、お願いします。

【東京】 東京新聞です。今お話がありました給食の件で、国が月5,200円負担するということを示されていますけれども、川崎市が来年度から設定している価格だと、月どれぐらの基準額を超える部分が出てくるのか、教えていただけますでしょうか。

【市長】 もう大丈夫なんだっけ。5,900円をという形で、そのまま反映しますとなり

ますので、700円分、負担していただくという形になります。

【東京】 国のほうも、超える部分は保護者からの徴収が可能という形で示していますけれども、これをそのまま保護者に負担してもらうのか、それとも、その700円分は市費でということもあり得るのかというのはどうなのでしょう。

【市長】 基本は、今の法律上、保護者に負担していただくのが当然な話だと思っています。要するに、そうじゃなかったら、ちゃんと学校給食法を改正しないとおかしな話なので、一時的措置ということで見るといいんですかと思うぐらいなんです。本来は学校給食法を改正して、この負担というのは国でやるということなのかどうなのかということをやちゃんと明らかにしてから財政措置がしっかりされるべきと思っているので、今の御質問から言うと、何となくもう無償化ありきみたいな話になってしまうと、今そういう形になっていませんということなので、そこはちゃんと伝えないと議論がおかしくなっちゃうなというのを非常に危惧しています。

#### 《行政サービスコーナー等について》

【東京】 ありがとうございます。

少し話が変わるんですけども、横浜市が行政サービスコーナーを横浜駅と戸塚を残して、ほかのところは廃止していくということを示したんですけども、マイナカードによるコンビニ発行なんかは川崎市でも同じような状況なのかなと思うんですが、川崎市では、今後、行政サービスコーナーの存廃を考えていくということはあるのでしょうか。

【市長】 今現在でどこをどうするかということは考えておりません。

【東京】 ごめんなさい、事前に事務方に聞ければよかったですけれども、行政サービスコーナーの利用者数というのは減ってはきているのでしょうか。

【市長】 いや、どうでしょう、減ってないと思いますけど。ただ、いわゆるコンビニ交付が確実に多くなっているということは言えると思いますが、本当に将来的には私たちが目指しているのは、行かない、書かない市役所というものを目指していますので、そういった意味では、そういった機能を限りなく小さくしていくようにやっていくのが方向性だと考えています。

【東京】 そういう中では、川崎においても行政サービスコーナーをどうしていくかということも、また併せて考えていくような形にもなっていくんですか。

【市長】 サービスコーナーの存廃云々という話には今全くなっておりませんが、ただ、目指すべき方向というのは、まず行かないということですから、手元でほとんどの申請ができるような形にしていくという流れはそういうことだと思います。

【東京】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問はございますでしょうか。

朝日新聞さん、お願いします。

#### 《インターネット上の誹謗中傷への対応について》

【朝日】 どうも、朝日新聞です。

鳥取県がネット中傷や差別について、行政罰の過料を科すという条例改正をしまして、氏名を公表して、さらに発信者に削除命令して、従わない場合の氏名公表と過料という罰則を盛り込んだんですけれども、川崎市は先駆的に市の条例で取り組んできたんですけれども、今回の鳥取県の取組について、市長はどういうふうな感想を持たれましたでしょうか。

【市長】 SNSとかの誹謗中傷の類いみたいな話というのは、これまで私たち、国に対するネットの世界の話というのは、なかなか一自治体で完結するものではないので、国のほうで対応を求めていくという立場でありますから、そういった意味で、鳥取県さんの、僕、詳細を存じたものではないので、地域の実情に応じた……。というか、これはいわゆるヘイトスピーチ云々かんぬんの話じゃなくて、ネットの全ての誹謗中傷を対象にしているということですか。ということなので、ちょっと色合いがまた違うのかなと思いますけれども、いずれにしても、ネット上の誹謗中傷に関しては、私も関心を持っていることには間違いありませんが、どこまでネット上の話を自治体でやれるのかなというのは、ぜひ鳥取県の状況を注目したいと思っています。

【朝日】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございます。

(以上)

---

・この記録は、明らかな言い直しや言い間違い、質問項目など整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当